

No.3011

カンボジアの伝統医療に関する人類学的研究：クルー=クマエを対象として

東北大学大学院 文学研究科

中野惟文

本研究の目的は、クルー・クマエと呼ばれるカンボジアの伝統医療師の治療実践とカンボジアの農村部における医療の実態を、文化人類学的なフィールドワークによって明らかにすることである。

本研究は2019年6月から2020年2月にかけて断続的にカンボジアで現地調査を行った。報告者はシエムリアップ郊外の村に住む1人のクルー・クマエ、同村の雑貨屋の経営者に注目した。彼らがどのような医療システムに関わっているかを明らかにし、カンボジアにおける医療選択の実態を民族誌的に記述した。

カンボジアの農村では近代医療へのアクセスが難しい場合が多い。調査村では、村にいるクルー・クマエと雑貨屋の経営者がどのように医療システムに携わっているかを明らかにした。重病を患ったクルー・クマエは自身の伝統医療を試し、次に近代医療を頼った。近代医療が自身の希望を満たさないと知った後は、自分以外の伝統医療師のもとで治療を受けた。回復傾向にある現在、自身の体力と自信の低下を理由に、伝統医療からは遠ざかっている。それまではクルー・クマエを頼ってくるような負傷度合いの患者の多くは、彼のアドバイスに従って近代医療に受診している。

調査村では薬の販売を無許可で行っている雑貨屋がある。これにより、村人たちは軽度の症状であれば気軽に近代医療の薬にアクセスできる。しかし、販売者は専門家ではないため販売すべき薬を間違える場合もあり、それが不安な村人は村から離れた薬局まで買いに行くことも多い。

これらの事例を通じて、伝統医療師クルー・クマエによる医療実践とカンボジア農村における村人たちの医療選択の実態を明らかにできた。これらの成果は、学会誌への論文投稿、博士論文のかたちで発表予定である。